



キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

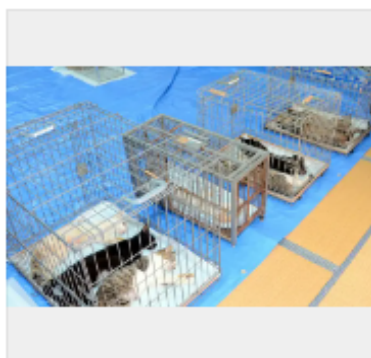
## 数匹がいつの間にか20匹以上 独居老人宅で多頭飼育の猫、ふん尿やけんかで問題に 市とご近所が不妊手術をお手伝い

7/24(日) 20:46 配信

91



南日本新聞社



不妊手術を終え、麻酔で眠る猫 = 日置市吹上の西宮内自治公民館

鹿児島県日置市は、吹上地域の90代独居女性が飼っている猫14匹の不妊手術を支援した。同市が登録している公益財団法人どうぶつ基金（兵庫県）を通じ、法人の協力病院の獣医師が施術した。

【写真】不妊手術のため麻酔を掛けた猫をゲージから出す獣医師 = 日置市吹上の西宮内自治公民館

女性は数十年前から自宅で猫数匹を飼っていたが、現在では20匹以上に増え、近所でふん尿や猫同士のけんかなどが問題になっていた。

同日は女性の許可を取って、わなを設置。女性宅の近くにある西宮内自治公民館で捕獲できた14匹を処置し、耳に切れ込みを入れた。未処置の猫は捕獲でき次第、協力病院に運ぶ予定。

日置市職員のほか、市議や地域のボランティアらも手術を見守り、雑務を手伝った。地域猫問題に取り組むさつま・しっぽの会（同市）の福永美幸代表（63）は「増やさない責任は飼い主にあるが、収入のない高齢者の多頭飼育は社会全体で考える問題。行政が動いてくれたことは大きな一歩だ」と語った。